

「古稀」に値する(?)同期生登山 高校同期生2011年度登山旅行

9月26日～28日で高校同期生による登山旅行が行われた。今年の参加者は恩師(女性)一人、同期生18人(女7、男11)。

体調不良で常連数名が欠けたが、今年度古稀となる年齢からすれば止むを得ない事かと思われる。

迫力満点の3つの名瀑

26日午後、日光観光を終えた仲間たちが三々五々東武鉄道日光駅前に集まってくる。九州7、関西5、中部2、関東5と各地からの懐かしい顔ぶれ。中には前日から来ていて、日光の観光や奥日光の自然を楽しんだメンバーも居り、そうした話で駅前には賑やかに。



日光白根山山頂部で。バック中央が男体山、右中禅寺湖

今夜の宿=奥日光高原ホテルが差し向けてくれたバスの運転手さんはガイドも巧み、大きな声で説明しながら華厳の滝と湯滝に立寄ってくれた。台風によって水量を増した滝はいずれもすさまじい音を響かせ、水煙を激しく巻き上げながら落下し、奔流となって流れくだっていく。前日見た竜頭の滝の激流をも思い起こしつつ、周囲を圧倒する瀑布に見惚れていた。

夕食時、全員のあいさつと近況報告がなされた。私は「70歳の人間はもう珍しい存在ではなくなった。しかし70歳を迎える同窓生が10数年に亘って登山を続けているのは古来稀ではないか」と述べた。仲間を見ているの私の実感なのだ。

夕食時、全員のあいさつと近況報告がなされた。私は「70歳の人間はもう珍しい存在ではなくなった。しかし70歳を迎える同窓生が10数年に亘って登山を続けているのは古来稀ではないか」と述べた。仲間を見ているの私の実感なのだ。

碧空に聳え立つ岩峰・白根山

翌朝ゴンドラに乗って標高2000mの山頂駅に。紅葉は未だだが、紫紺のリンドウが蕾を大き

下ゴゼンタチバナ



華厳の滝 く膨らませて群れ、ヤマハハコ、ノコギリソウが最後の花を咲かせている。花壇にはコマクサが一株だけ咲き残っていた。

そして東方に、日光白根山が晴れ渡った空の中に一塊の岩峰となって聳え立っているのだ。標高差は高々570m





なのに、遥かに高く、やけに遠く見える。

9：15 15名が登山開始、登山路は深い樹林帯の中を時には急勾配を配しながら登っている。足元にはカニコウモリの群落が続くが、いずれも花は終わっており、ゴゼンタチバナの朱色の実が目を引き。

途中で3人の男たちを追い抜く。一人は大きな石柱を担いでいる。山頂に建てる三角点で重さ70キロ強とのこと(左の写真)。こんな重い物はてっきりヘリコプターで運ぶものと思っていたのでびっくり、将に強力(ごうりき)ではないか。三角点ハンターの人が見たら喜ぶだろうにと思いつつ、3人の労をねぎらった。

樹林帯を抜けると一気に視野がひろがった。

ここで女性二人が登頂を断念。昼食を済ませて

皆が下ってくるのを待つことになる。見上げると頂上部の岩峰めざして道がジグザグに続いており、仲間たちがゆっくり、ゆっくり登っている。ガレ場ともザレ場とも言えるような岩礫、砂礫の道で、ズルッ、ズルッと後退しつつ、歩を運んでいく。

やっと頂上部に到着。予定通り12時30分。岩角にすがって攀じ登り、右に火口跡の大きな窪みを見、次の火口跡に降りて登り返すと白根山山頂だ。海拔2578m、関東以北の最高峰だけに360度の眺望。次に高い男体山(2484m)が東南東に独特の山容で聳え、その麓に中禅寺湖が青く、鮮やかに光っている。

頂上の岩で仁王立ちの女性二人が双手を突き上げて快哉(かいさい)を叫んでいる。「齢(よわい)70の青春」とでも言うべきか。

山頂部の一角で昼食。宿が調べてくれた弁当は竹皮編みの箱に詰められており、そのおにぎりやおかずの美味しかった事。

下山は往路を引き返す。助け合いながら順調に下って14時30分に登山口に到着。奇しくもこの日はT君の誕生日、本人のおごりで、生ビールによる誕生祝いをし、ゴンドラで下ると迎えるバスが来ていた。(次号に続く)



お知らせ

ハイキング講座「腰痛・膝痛のリハビリとケア」 主催は土庫病院友の会山歩きクラブ

日時：12月3日(土)午後2時～ 会場：健生荘2階多目的室 (以上140号)